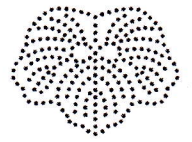


「リュウマ伝」は高野の分身がお客様のところへご挨拶に伺う。という気持ちでお届けしています。



リュウマ伝

27号

2022年 2月26日
高野 竜馬

「お手製メダルを…」

フロアに趣味スキーと書く
ためだけに、年一回、スキーをす
る高野です。最近では九重あ
たりで、ちょっと滑る程度で
すが、キャリアは33年になりま
した。

という訳で冬のオリンピックも
興味津々。特にモーグルにおい
ては多少なりともプロに近い
目線で楽しめます。

優勝候補と言われながら惜し
くもメダルを逃した女子モーグ
ルの川村あんり選手には私が
お手製メダルを差し上げた。
いくらかの素晴らしい滑りでした。

第1エアの着地から第2エア
までミスのない美しく速い滑
り。滑走後の笑顔、そして
コーチのガッツポーズが、その完璧
さを物語っていました。

ところが結果は5位…。

全競技者のターン点をチェック
しましたが、「やはりねえだろう」
って思いましたもの。採点競技
の性と言うか、人が人を評価す
る曖昧さを見た気がします。

その「評価」はシステムエンジニア
時代の賞与査定に恥ずかしい
思い出を呼び起こしました。

私は新人の時から退職の年ま
です。と最高の査定をもら
て天狗野郎だったのですが、
最後の最後に「普通」の査定
を受けたことがあり、担当課
長に食ってかかったことがある
のです。

今思えばとても恥ずかしいこ
とです。言いたいだけ自分の実
績を言っただけで、言うことが無くな
った時、私がホソリ、「こんな
頑張ってきたのに…」と呟くと

担当課長もか細い声で

「みんな頑張ってる、言うん
だよ…」と言われたのです。

その言葉を聞いた時、内心、
「やはりそうだな。誰でも頑張
ってるか？」と聞かれたら、頑
張ってる、言うよな。査定す
る人も大変だな」って思ったの
です。

そして抗議した自分が、とても
恥かしくなったのを思い出しま
した。

そんなちっぽけな話を、ここに
持ち出すこと自体、不勤惰か
もしれません。しかしながら今
も私の抱える問題は同じな
のです。

我欲を捨てて、どんなに良い提
案をしても評価をするのは、先
お客様。採用されないのは、先
様にも事情がある、ということな
のです。

それを自分は、ちんちんと受け入
れているだろうか？不足不
満の顔をしてないだろうか？

川村選手はあれだけのパフォー
マンスをしながら結果をスグ
に受け入れました。

その潔さ、応援してくれている
方々への感謝の言葉だけで
なく、取材後のインタビュー
に「寒い中、ありがとうございます」
と、労いの声をか
けたことで、世間を更に感動
させました。

自分自身の未熟な過去を
思い起こさせ、思った通りの
結果が出なかった時にこそ
人間の素地が出ることを、

教えてくれた北京
五輪のアスリート
達に只々感謝
です。



たかの財形事務所

〒819-0374 福岡市西区千里 707-13

☎090-3407-2123

<https://www.takanozaikai.com> メール fp.takano@gmail.com

いつも応援してくれて有難うございます。